

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『まちづくりのための人流ビッグデータ活用入門』

陣内寛大，樋田英能，
株式会社 GEOTRA 著
学芸出版社発行
2026年2月／2,750円（税込）
所蔵箇所：信濃町

都市計画や交通分野でも注目を集める「人流ビッグデータ」について、基礎知識から実務への応用までを体系的に解説した入門書。人流データを「なんとなく面白いもの」で終わらせず、具体的な施策や意思決定に活かすための分析手法や、豊富なケーススタディが整理されている。

人口減少や高齢化が進むなか、持続可能な地域交通ネットワークの再構築は喫緊の課題である。モビリティの分野でもAIオンデマンド交通やシェアモビリティの社会実装、3D都市モデルといったデータインフラ整備が進み、政策立案におけるデータ活用の重要性は高まるばかりだ。こうした背景を踏まえ、限られた公共交通資源の効果的な配分や、移動ニーズの把握過程における住民の移動パターン、ボトルネックとなるエリアの可視化など、データを駆使して交通政策を高度化させる実践例が具体的に示されている。

「人の動きからまちのポテンシャルを読み解きたい」、「人の移動実態を根拠に議論したい」といったニーズに、客観的なエビデンスに基づくアプローチで応える一冊である。（原）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『鉄道と文化』

原田勝正，小池滋，青木栄一，宇田正編
日本経済評論社発行
1986年7月
所蔵箇所：上野（一般公開中）

資料室がある台東区上野には、博物館、美術館など数多くの施設があり、文化の一大集積地である。その玄関口にあたるJR、東京メトロ、京成の上野駅もその一翼を担っている。今般JR上野駅では、「文化創造HUB」をテーマに掲げて、人とまち・地域をつなぐ取り組みを行うそうである。

鉄道と文化の関係はさまざまな図書において論じられているが、資料室で所蔵しているものに『鉄道と文化』がある。本書は、鉄道と文学、鉄道と映画、鉄道と美術といった狭い意味にとどまることなく、文化をもっと広くとらえたらどうなるかという問題意識から取りまとめられたものである。編者を中心としたこの分野に関心を持ったメンバー8名による座談会スタイルが採られ、「鉄道と近代化」、「鉄道と文化現象」の2部からなり、関連するコラム31件も掲載されている。座談会では、結論を急ぐことなく、さまざまな内容について論じることにより、鉄道と文化のかかわりの深さを編者自身が改めて認識している。

資料室も文化集積地にいることを意識し、資料提供を通じて貢献ができればと思う。（土方）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当：古森崇史，原祥太，土方規義，田邊由佳

